

焼却灰処分先、近く合意を示唆

「今、最終調整段階」

知事 震災がれき処理で会見

鈴木英敬知事は二十九日、先について、「今、最終段階、定例記者会見に臨み、震災がれきの焼却灰の処分」とは言えないが、早く示した。



会見に臨む鈴木知事＝県庁で

課題となっている最終処分場の確保に關し、「通常のごみ焼却灰の処分先と、基本的には調整している。県内外のさまざまな業者がある」と語った。県と市長会、町村会の合意で受け入れる対象を木くずなどの可燃物としているのに絡み、不燃物の県内処理については、「現在のところ考えていない」とし、「放射線量を調べたが、可燃物と比べて高いケースが多い」と説明した。

また、県内処理の必要があるとする県と、「松阪市が受け入れる不可欠性がなくなってきた」との山中光茂松阪市長の発言が食い違ふ点では、「県が窓口となつて（岩手、宮城両県と）事務的に詰めている。今言えることを、ありのまま伝えていく」と主張した。

具体的には、二十八日に細野豪志環境相と達増拓也岩手県知事が会談した際の資料で、「最優先で広域処理の実現を図る自治体」の一つに三重県が入っている点に言及し、受け入れは必要だと指摘。その上で「県民が不安にならないよう、（松阪市との齟齬について）丁寧に対応したい」と話した。（森川静香）